

自然災害への準備や対応

三重県

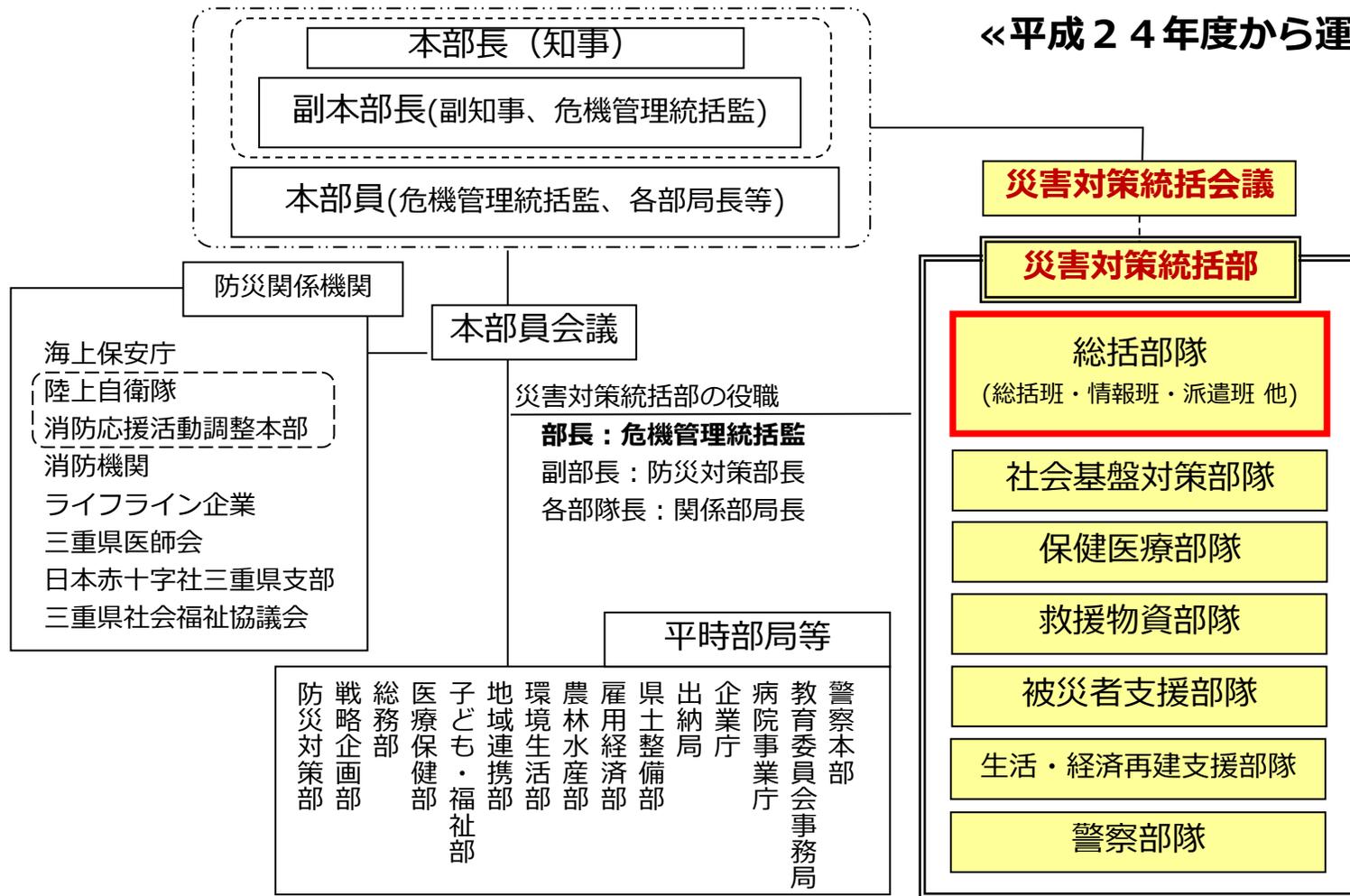
構成

- ▶ ① 災害対策本部の体制
- ▶ ② 三重県広域防災拠点
- ▶ ③ 受援体制の整備
- ▶ ④ 物資・災害ロジスティクス
- ▶ ⑤ 南海トラフ地震臨時情報への対応
- ▶ ⑥ 三重県版タイムライン
- ▶ ⑦ 海拔ゼロメートル地帯における広域避難
- ▶ ⑧ 防災情報プラットフォーム
- ▶ ⑨ 避難行動促進事業
- ▶ ⑩ 三重県総合防災訓練

① 災害対策本部の体制

東日本大震災や紀伊半島大水害などの教訓をもとに、
災害対策本部の機能強化のため、本部組織を見直し

≪平成24年度から運用≫



【体制のポイント】

- (1) 危機管理統括監のもと
 一体的な災害対策を行える
「災害対策統括部」の設置
- (2) 災害対策統括部に対応
 方針の立案や関係部局との
 調整を行う **「部隊」の設置**
- (3) 情報収集、市町支援等
 人的支援体制の確立を目的
 とした **「派遣班」の設置**
 ⇒大規模災害時は
「応援・受援班」
- (4) 臨機応変に対応検討等を行
 行う **「災害対策統括会議」
 の設置**
- (5) 災害対策統括部の部隊
 各班の **事務分掌等の明確化**

②三重県広域防災拠点

広域受援計画における広域防災拠点の役割

広域防災拠点とは、大規模災害発生時に
 応急対策活動の活動拠点となる施設です。
 三重県広域受援計画において、広域物資輸送拠点と
 位置付けており、国等からの調整によって供給される
 物資を県が受入れ、各市町が設置する地域内輸送拠点や
 避難所に向けて、物資を送り出します。
 平成29年度の北勢拠点の完成をもって、
 県内5エリア6拠点の整備が完了しました。

広域防災拠点の災害時の機能

- 情報通信・連絡調整機能
- 空輸機能
- 応援要員受入れ機能
- 物資保管・集配機能
- 燃料保管機能

○三重県広域防災拠点(北勢拠点)



○広域防災拠点の所在地

名称	所在地	敷地面積 (㎡)	倉庫床面積 (㎡)	駐車スペース面積 (㎡)
北勢拠点	四日市市中村町	13,384	1,547	6,737
中勢拠点	鈴鹿市石薬師町	5,658	1,398	—
伊勢志摩拠点	伊勢市朝熊町字東谷	35,732	1,184	15,233
伊賀拠点	伊賀市荒木	32,282	959	12,333
東紀州(紀北)拠点	尾鷲市光ヶ丘	20,086	136	2,280
東紀州(紀南)拠点	熊野市久生屋町	12,280	495	1,525

③ 受援体制の整備

三重県広域受援計画

南海トラフ地震等の大規模災害時に、国・他県・関係機関等の応援を円滑に受入れるため



平成29年度に支援物資の受入等を定めた「三重県広域受援計画」を策定

【構成】 ①総則 ②緊急輸送ルート ③救助、救急、消火活動 ④医療・保健活動 ⑤介護職員
⑥物資調達 ⑦燃料供給、電力、ガス、通信 ⑧ボランティア ⑨応援職員



三重県広域受援計画と連携が取れた受援活動を円滑に実施するため、平成30年度に「三重県市町受援計画策定手引書」（①支援物資 ②ボランティア ③応援職員）を作成し、市町の受援体制の整備を水平展開

市町への水平展開

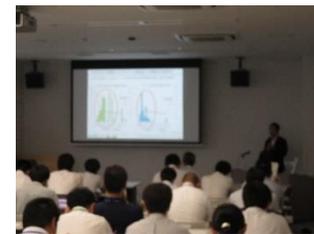
○受援体制整備に係る活動実験（H30）

市町、関係機関の参加のもと
三重県広域防災拠点で、受援
計画の各種機能の検証を実施



○市町受援体制整備に係る研修会（R1・R2）

被災自治体の職員や、派遣経験を
有する職員、有識者等を講師として
招き、受援体制整備の研修会を開催



④ 物資・災害ロジスティクス

物資輸送に関する検討体制

- 災害ロジスティクスについては、東日本大震災を受けて国土交通省を中心として全国的に検討が進められてきました。
- 中部運輸局においては、平成25年度から災害ロジスティクス中部広域連絡会議が設置され、検討が進められています。

H26設置

災害ロジスティクス中部広域連絡会議三重県地域部会

H28設置

- ワーキンググループ(県救援物資部隊)
- 【構成】三重県、中部運輸局、物流事業者
- 【成果】救援物資部隊活動マニュアル作成
⇒訓練でマニュアルの検証

H28設置

- ワーキンググループ(県広域防災拠点)
- 【構成】三重県、中部運輸局、自衛隊、物流事業者
- 【成果】広域物資拠点活動マニュアル作成
⇒訓練でマニュアルの検証

H29設置

- 三重県ラストワンマイル検討会
- 【構成】三重県、県内全市町
- 【成果】国プッシュ型支援物資の市町別配分計画を作成

物資調達・輸送調整等支援システム

- 市町説明会(令和2年7月14日、15日)
国が今年度に導入した「物資調達・輸送調整等支援システム」の習熟に向けて、市町を対象とした操作研修を行いました。

- 総合防災訓練(令和2年11月15日)
三重県広域防災拠点(伊勢志摩拠点)における物資輸送訓練をシステムを活用した内容で行いました。

⑤ 南海トラフ地震臨時情報への対応

南海トラフ地震臨時情報への対応

国の「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」（以下、「基本計画」という）が令和元年5月31日に修正され、これを受け、気象庁では南海トラフ地震臨時情報（以下、「臨時情報」という。）の運用が開始されました。

➡ ①南海トラフ地震防災対策推進計画の修正 ②事前避難対象地域の設定の検討

○防災施策に関する研究会の開催（計6回）

市町、気象台等の参加のもと、事前避難対象地域の考え方等について意見交換や情報共有を実施。



この他、各市町を訪問し個別ヒアリングなども実施。

⑥ 三重県版タイムライン

三重県版タイムライン策定の目的

タイムラインとは、台風に対し、「いつ、誰が、何をするか」を時系列で整理したもので、事前対策として被害の最小化へつなげることを目的としています。県庁内の組織を超えた取組を行うとともに、関係機関とも連携を図り、一体的に災害対策を行うことで防災・減災をめざしています。（平成30年4月：本格運用開始）

タイムラインステージ	想定される状況	目安となる時間軸
タイムラインステージ1(発動)	台風の接近	5日前～2日前
	↓	
タイムラインステージ2(準備段階)	台風が本土上陸、大雨・洪水注意報など	2日前～1日前
	↓	
タイムラインステージ3(早期警戒)	台風が本県接近、大雨・洪水警戒報など	1日前～当日
	↓	
タイムラインステージ4(行動)	台風が本県通過、土砂災害警戒情報など	当日
	↓	
タイムラインステージ5(緊急対応)	災害発生(河川氾濫、土砂災害など)、特別警戒報など	当日
	↓	
タイムラインステージ0(解除)	警戒の解除、避難情報の解除	当日～1日後

三重県版タイムラインの基本的な考え方

- (1) 対象とする災害 本県に影響を及ぼす可能性がある台風
- (2) 想定される運用時間(いつ) 概ね台風到達5日前から1日後
- (3) 運用主体(誰が) 三重県 ⇒ 県災害対策本部における各部隊
関係機関 ⇒ 津地方气象台、警察、自衛隊など
- (4) 行動項目(何をするか) 台風が本県に接近するまでに行うべき事前対策を中心に、行動項目として整理しています。

タイムラインの掲示状況



⑦ 海拔ゼロメートル地帯における広域避難

浸水時における広域避難に関する協定

平成28年10月26日

桑名市、いなべ市、木曾岬町及び東員町の桑員地域2市2町は、桑名市及び木曾岬町の海拔ゼロメートル地帯で高潮・洪水等により浸水が発生した場合等に、市町域を越えて住民のみなさんがいなべ市及び東員町に避難できるよう広域避難協定を締結しました。



広域避難タイムラインの検討

桑員2市2町（桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町）及び三重県で構成する桑員地域防災対策会議では、海拔ゼロメートル地帯で広範囲に高潮及び洪水が発生した場合に備えて、「いつ、誰が、何をするか」を整理した広域避難タイムラインを作成すべく取り組んでいます。

今年11月には、広域避難タイムライン（案）の検証を目的とした討論型訓練を実施しました。



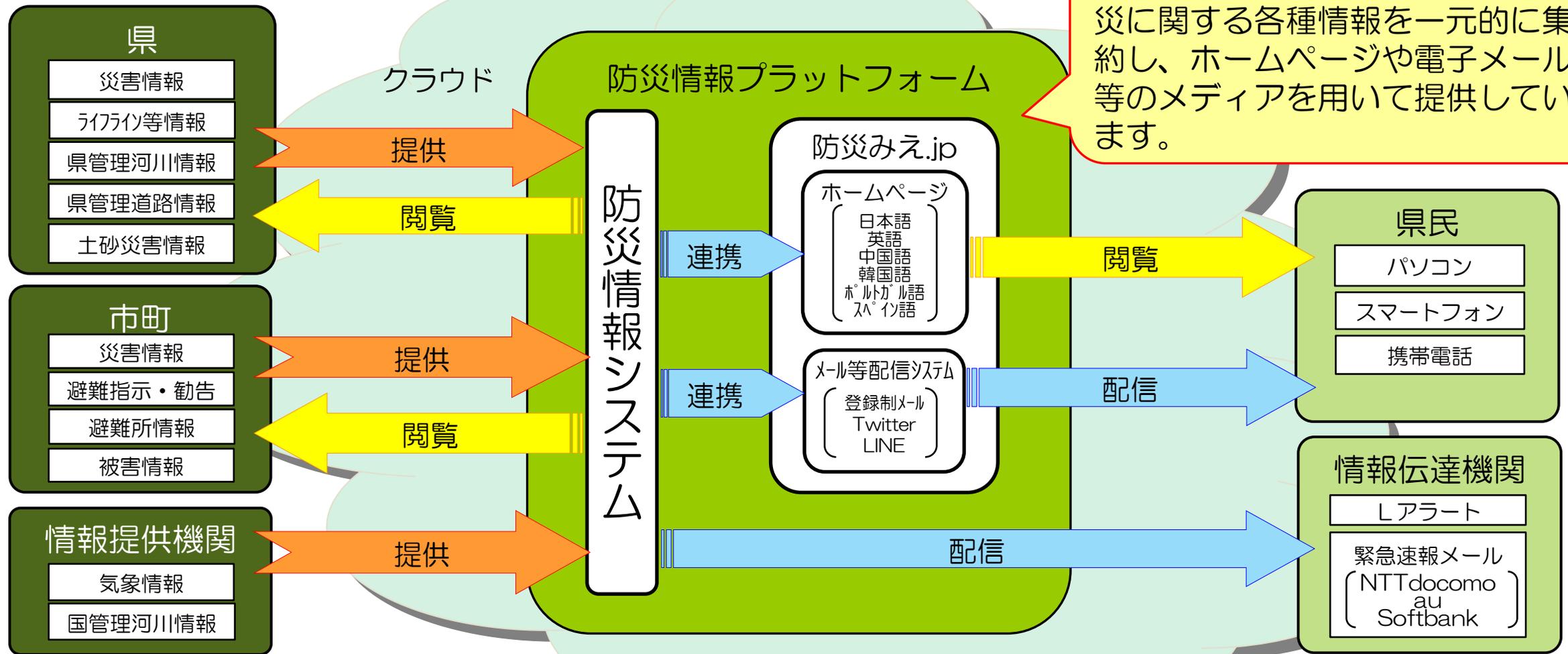
広域避難 訓練状況

伊勢湾台風60年
防災訓練

令和元年9月1日
於：木曾岬町



⑧ 防災情報プラットフォーム



防災情報プラットフォームは、防災に関する各種情報を一元的に集約し、ホームページや電子メール等のメディアを用いて提供しています。

「防災みえ.jp」ホームページ
 気象情報や台風・地震に関する情報、防災情報等を配信している総合防災サイトです。
<http://www.bosaimie.jp>

「防災みえ.jp」メール配信サービス
 気象情報や台風・地震に関する情報等をメール配信しています。
a@bosaimie.jpへ空メールを送信して登録

Twitter「防災みえ」
 気象情報や避難の呼びかけ、防災情報等を配信しています。
<http://twitter.com/bosaimie/>

LINE「防災みえ」
 避難の呼びかけや防災情報を配信しています。スマホのLINEアプリで閲覧できます。
 友達登録用ID:@bosaimie

⑨ 避難行動促進事業

AIを活用した災害情報のマッピングによる可視化

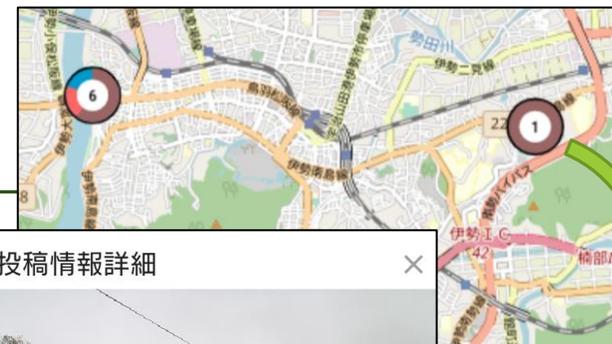
情報提供者（市町職員や消防団員等）が、システムのLINEアカウントを初期設定し、災害現場からLINEを使用して、現場の状況や画像、位置を災害対策本部に送信



AIが自動的に「氾濫・決壊」「浸水・冠水」「土砂災害」「建物被害」などのカテゴリに分類し地図上に表示



本システムで収集した河川の氾濫や土砂災害などの情報を使用し、SNS等で分かりやすい避難の呼びかけを行い、適切な避難行動を促進

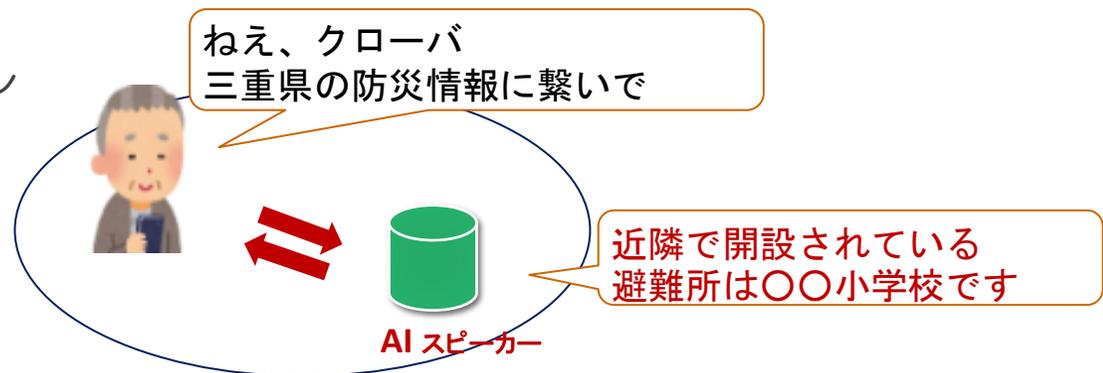


AIスピーカー等を活用した避難情報等の提供

AIスピーカー（LINE CLOVA）の利用者が事前に住所を登録し、災害時にAIスピーカーに問いかけ



登録された住所に近い開設中の避難所をAIスピーカーが回答
令和3年度からは避難指示等の発令状況も回答予定



⑩ 三重県総合防災訓練

三重県地域防災計画（地震・津波対策編）

（1）総合防災訓練の実施

大規模地震を想定した災害応急対策を中心とする総合防災訓練を継続的に実施する。なお、各訓練を企画するにあたっては、東日本大震災等で顕在化した課題を考慮する。

【実動訓練】

県内市町を会場に、**住民参加、救助機関との連携、各地域の災害特性に応じたテーマ別訓練**の3点を考慮して、避難訓練、避難所運営訓練など自助・共助の訓練、救出・救助・搬送など公助の訓練を各団体・機関と連携して実施する。

令和2年度三重県・伊勢市・玉城町・度会町総合防災訓練

今年度の訓練は、新型コロナウイルス感染症対策が必要な状況における大規模災害への対応をテーマとして、訓練内容や規模についても「三つの『密』」を避けるなどの対策を取り入れた訓練としました。

1 訓練日時・場所・想定

（1）日時：令和2年11月15日（日）

（2）場所：主会場 伊勢市立桜浜中学校

その他の会場 三重県広域防災拠点（伊勢志摩拠点）、伊勢志摩総合地方卸売市場、津波緊急避難所、玉城町立田丸小学校、玉城町お城広場屋内体育館、度会町民体育館、度会町防災倉庫

（3）想定：新型コロナウイルス感染症が発生している状況で、南海トラフ地震が発生

2 参加規模

（1）参加機関 防災関係機関、協定締結団体等 計30団体

（2）参加人数 住民参加 約470名、訓練参加機関等 約380名、計 約850名

